7 AFFORDABLE AND CLEAN ENERGY

〈目標7〉エネルギーをみんなにそしてクリーンに

すべての人々に手ごろで信頼でき、
持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する

東日本大震災の後、東北地方の被災地では再生可能エネルギー施設の設置が進んだ。ただこういった再生可能エネルギー施設の多くは電力会社へ売電しており、地域でそのまま使える電力ではない。震災後の、自分たちが使う電力を自分たちで作りたい、非常時にもすぐに使える電源が身近に欲しいというニーズにはマッチしたであろうか。

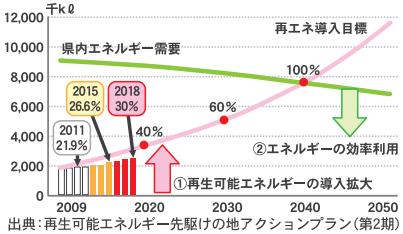
自分たちの手で地域のエネルギーを生み出す

福島県いわき市にある、いわきおてんとSUN企業組合は、自分たちに必要な電力を知ること、自分たちで作ることで、設備の仕組みを知りメンテナンスも自身でできるようなることを重点に起きコミュニティ電力普及活動をしている。いわきおてんとSUNの自然エネルギー教室は太陽光パネルを作るところから始まる。主に県内の小中学生を対象とすることが多いというこの教室では、子どもたち自ら半田ごてを使って半導体を結合板につけていく。パネルの作り方から知ることで、発電の仕組みを学びメンテナンスもできるというわけだ。パネルは校内に設置し携帯電話などが充電できるソケットも備えておく。

「技術的なことを学ぶだけではなく、身近な電化製品の消費電力にも目を向け、コンセントの先を考え意識することも大事です」と話すのは同組合の島村守彦事務局長だ。「最近ではコンサート会場の電源供給を頼まれることもあるんです。アーティストさんに必要な電力を伺って必要な分を供給しています。」 そのように、自分たちに必要な電力について考えることも重要だ。我慢を強いるのではなく、本当に不要な電力使用はないのか、振り返ってみる余地はあるのではないか。その思考が未来のことを考えて、電力会社を選ぶことにもつながっていくのではないだろうか。元々、同組合はいわき市で地域再生活動をしていた3人が中心となって立ち上げた。「これらの活動は手段であって目的は地域再生です」と島村氏は語る。設立当初、目指す地域未来像を絵にしたのも目的を忘れないためだ。そこに描かれているのは、地域が再生可能エネルギーで自立している様子だ。

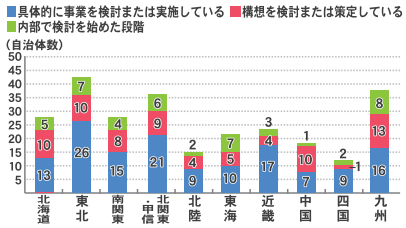
「電力を選べる時代がきて『自分は再生可能エネルギーを使っているよ』ということが、ステータスやファッションのようになるといい」と希望を語った。

導入見込量の目標値に対する進捗度



出典：再生可能エネルギー先駆けの地アクションプラン（第2期）
平成28年3月　福島県

地方別地域エネルギー政策取組状況



出典：地方自治体の地域エネルギー政策推進に向けた取組み状況について
平成27年3月 環境省 総合環境政策局 環境計画課

学校に設置された自立式の太陽光パネル＆LED電気・蓄電池

● いわきおてんとSUN企業組合

2011年3月11日に発生した東日本大震災。大きな被害を受けた福島県いわき市を拠点に地域づくり活動やNPO活動をしていた6人が、市民のための復興まちづくりを目指して「いわきおてんとSUN」プロジェクトを始めた。2013年には法人格を取得し、プロジェクトの一環として自分たちの手で作るコミュニティ電力の普及を進めている。

［いわきおてんとSUN企業組合］ http://www.iwaki-otentosun.jp/

Point

- 再生可能エネルギーで地域電力自立を目指す。
- 使うだけではなく、作れる人を作る。
- いざという時に使える再生可能エネルギーを地域に備える。

いわき自然エネルギー学校の思い描く未来とエネルギー